

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イネいもち病におけるストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性菌の発生
状況及び防除対策（技術情報第14号）について（送付）

このことについて、ストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性いもち病菌の発生状況を調査し取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

本年、県内 49 ほ場から採集したいもち病菌の中から、QoI 剤耐性を示す菌が 13 ほ場で確認された。耐性菌はQoI 剤を使用したほ場で多く見つかったことから、引き続き従来の使用制限と種子消毒の徹底が必要である。

1 発生状況

昨年7月に県内で初めてQoI 剤耐性いもち病菌（以下耐性菌）を確認し、県内での耐性菌の広がり状況を確認するため22ほ場を対象に調査を実施した。本年も6～10月に県地域振興局（熊本、菊池、芦北を除く）管内49ほ場で採集したいもち病菌について、PCR-RFLP法により耐性菌の有無について調査を実施した。

その結果、

- 1) 耐性菌は13ほ場で確認された。昨年発生がなかった阿蘇及び天草では本年も確認されず、県内での新たな広がりはなかった（表1）。
- 2) 耐性菌の発生ほ場率は、箱処理剤にQoI 剤を使用したほ場で高かった（表2）。

表1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

地域名	H25(注)			H26		
	採集ほ場数	耐性菌	感受性菌	採集ほ場数	耐性菌	感受性菌
熊本	-	-	-	-	-	-
宇城	2	1	2	9	3	6
玉名	-	-	-	6	0	6
鹿本	2	2	2	4	3	1
菊池	1	1	1	-	-	-
阿蘇	1	0	1	2	0	2
上益城	4	2	2	7	3	4
八代	-	-	-	4	1	3
芦北	7	2	6	-	-	-
球磨	4	3	2	13	3	10
天草	1	0	1	4	0	4
計	22	11	17	49	13	36

注)耐性菌と感受性菌が混在するほ場もあるため、発生ほ場数の合計と採集ほ場数は一致しない。

-は、いもち病菌の採集を行っていない。

表2 箱処理剤の使用と耐性菌発生状況 (平成26年調査)

箱処理剤の系統	使用ほ場数	耐性菌発生ほ場数	耐性菌発生ほ場率(%)
QoI剤のみ	17	10	58.8
QoI剤と他系統の混合	1	0	0
QoI剤以外の系統のみ	31	3	9.7

2 防除対策

- (1) 購入種子でも種子消毒を徹底する。
- (2) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI剤の使用は育苗期から本田期を通じて年1回とし、QoI剤を含有する育苗箱処理剤を使用したほ場では、出穂期前後の穂いもち防除にQoI剤を使用しない。
- (3) 種子更新にとまなう耐性菌のまん延を防ぐため、採種ほ場およびその周辺地域でQoI剤を使用しない。
- (4) 昨年いもち病が多発したほ場ではQoI剤を使用しない。
- (5) 耐性菌を確認したことで、急速に防除効果が低下するものではないが、QoI剤を使用したほ場で防除効果の低下が疑われる場合は、他系統薬剤を選び追加防除を行うとともに、病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。



図1) 葉に発生したいもち病菌

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所 山口

(生産環境研究所)

TEL: 096-248-6490

FAX: 096-248-6493